

上下を着て草履をはくところを、二人のお婆がいふには、親のない子ではなけれど、遠國へだて一目見せることならず、それともしらず、あのげんきよく参りにゆくことはと、後姿を見て涙ぐむ。

同年十二月十八日

鎌こちやかまやせぬを唄う。お江戸日本橋より高輪夜あけてでうちんをまで唄う。のぼる箱根も出来る。そのほか大分べろがまわるやうになり、五音相通もちとづつ出来、横よみ、あかさたなはまやらわなどひとり出来る。

一八四一年一月三日

鎌こ内が賑やかにてうれしがり、中どの上にて前をまくり、佐藤のおぢさ、郡のおばさ、おこんさ、山岡のせんさも来て見なへ見なへといふ故、代る代るゆけば、そばへきなんな、おかめの下で見なへといふ故、おかめ面を掛けておく柱にもたれて見て、これはえゝちんぼえらいもんぢや、でらぶつじやとほめると、大そううれしがつたとて、みなみな腹筋をよつて笑ふたげな。

同年一月六日

水瓶にうす氷はる。軒にさがん棒の出来たを鎌見つけ取つてくれとせがむ。羽子をつくから羽子をこしらふてくれとねだる。おみきをつげばおれがつぐ。火をうちかくればおれが打つといふ。丈夫にあくれるがせわはやけれど、わずらふているよりはるかましじや。

同年一月十三日

鎌之助豆まきにて大喜び。方々へ拾ひに歩き、内の豆ひろひ、佐藤でも鎌が行とまく。

同年一月十四日

鎌之助、留五郎をねたり西河原のどうど焼見にゆく。(つづく)



幼児の教育 第七十六巻第九号

九月号 ◎ 定価二〇〇円

昭和五十二年八月二十五日 印刷

昭和五十二年九月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。